

京都ならではの歴史博物館機能の検討に係るサウンディング調査業務委託仕様書

文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
担当者：青木、三浦 電話：222-3130

1 事業概要

本市においては、博物館機能を担っている考古資料館、歴史資料館の老朽化や展示面積の狭あい化が課題となっているほか、文化財を適切に保管・管理するための収蔵機能の確保が急務となっているため、令和6年度に「京都ならではの歴史博物館の機能の検討に係る基礎調査」を実施したところである（※）。

本業務は、令和6年度に実施した基礎調査結果を踏まえ、京都ならではの歴史博物館機能の整備方針を検討するうえで、博物館施設等の運営や整備実績を有する団体や民間事業者、本市博物館施設との連携相手になりうる大学・研究機関、本市の文化財について専門的な知見を有する研究者といった有識者を対象にサウンディング調査を行うものである。

※令和6年度の基礎調査の概要（令和7年9月10日 京都市会文教はぐくみ委員会報告）

https://www2.city.kyoto.lg.jp/shikai/img/iinkai/bunkyo hagukumi/R07/date/070910_bunshi3.pdf

2 目的

研究者をはじめ文化財関係者が交流するハブ機能、展示・教育機能、文化財の収集・保管機能それぞれに必要な設備等について具体的な情報を収集するとともに、ハブ機能において連携可能性のある大学や研究機関、有識者、文化財関係者から交流ニーズ等の聞き取り調査を行うことで、今後の本市博物館の整備方針の検討に向けた基礎情報やニーズの把握を目的とする。

3 委託期間

契約の日から令和9年1月5日まで

4 委託業務内容

(1) 調査計画の作成

調査の実施に当たっては、調査方針、調査手法及び調査スケジュールなどをまとめた調査計画書を作成し、本市と協議のうえ決定すること。

(2) サウンディング調査に向けた情報整理・資料作成等

令和6年度に実施した基礎調査結果や、調査対象候補者の情報等を整理し、調査項目を取りまとめたサウンディングシート等の資料を作成する。

(3) サウンディング調査の実施

ア 調査対象者（計15者程度を想定）

- ・博物館や文化財展示施設、収蔵庫施設の運営や整備実績を有する団体や民間事業者
- ・大学・研究機関、本市の文化財について専門的な知見を有する研究者等の有識者

イ 調査手法

対面又はオンラインによるヒアリング調査を基本とし、必要に応じ郵送又はメール送付によるアンケート調査する。

ウ 調査項目

- ・京都ならではの歴史博物館に求められる展示手法・設備
- ・研究者や文化財関係者が交流するハブとしての機能に必要な設備
- ・文化財を収集・展示し、良質な状態で収蔵することができる収蔵機能に必要な設備
- ・運営体制、運営手法
- ・施設整備する場合の候補地
- ・その他

(4) 打合せ協議等

業務着手時、中間打合せ及び成果品納品時を含め月次進捗報告（オンラインまたは対面）を開催すること。また、本市の求めに応じて、各業務の検討状況、進捗状況等について説明及び報告すること。

(5) 報告書の作成

調査結果及び各種資料（検討、検証、評価等に用いた参考資料や入手した既往資料、根拠資料など）等を整理するとともに、調査結果を踏まえて、想定される博物館機能を事業規模に応じ比較検討できるモデルプランをまとめた報告書について、詳細版及び概要版を作成すること。

5 成果物

任意様式で紙媒体により各部2部ずつ及びデータをCD-Rにまとめて1枚提出すること。

- (1) 報告書
- (2) ヒアリングシート及び摘録等の基礎資料

6 著作権等

- (1) 本事業の実施により得られた成果物の著作権、著作権等の一切の権利は、全て京都市に帰属する。
- (2) 受託者が撮影した写真や作成したデザイン等を他の目的に使用する場合は、京都市の承認を得る。
- (3) 成果物に含まれる第三者の著作権その他の権利については、受託者が適切な処理を行う。

7 その他

- (1) 本事業に関する情報の漏洩を防ぎ、事前の合意なしに公開しないこと。
- (2) その他、仕様書に記載のない事項、又は仕様書に疑義が生じたときは、京都市と協議し、その決定に従う。